

「中部山岳国立公園南部地域利用者アンケート2024」結果報告書

①目的

- 利用推進プログラム2025の「利用の質に関する数値目標」の達成状況の把握

【日本人／外国人別】

- ① 1人あたりの消費額
- ② 平均宿泊日数（周辺地域を含む）
- ③ 国立公園であることの認知度

- 南部地域の利用者の動向を把握し、事業立案等の検討材料とすること

②調査実施概要

- ▶ 対象者：中部山岳国立公園南部地域を訪れた利用者
- ▶ 対応言語：日本語、英語、中国語（簡体語・繁体語）、韓国語
- ▶ 調査期間：2024年7月15日～2025年1月12日
- ▶ 方法：Web回答
利用者がご自身でQRコードを読み取り、スマートフォン等で回答
(設置にご協力いただいている観光案内所等は右記参照)
- ▶ 回答数：709人（うち有効回答数(※)：704票）
- ▶ ノベルティ：1：中部山岳国立公園のオリジナルポスター等の画像
(回答後ダウンロード先をご案内し、ご自身でダウンロード)
2：松本市・高山市で使える地域通貨またはAmazonGift券
(抽選で75名様に2,000円分)

▼Web回答用のQRコードを掲載したラミネート加工のチラシ



▼ノベルティ
中部山岳国立公園の
オリジナルポスター等の画像



※回答後ダウンロード先をご案内し、
ご自身でダウンロード

<チラシの設置にご協力頂いている観光案内所等>

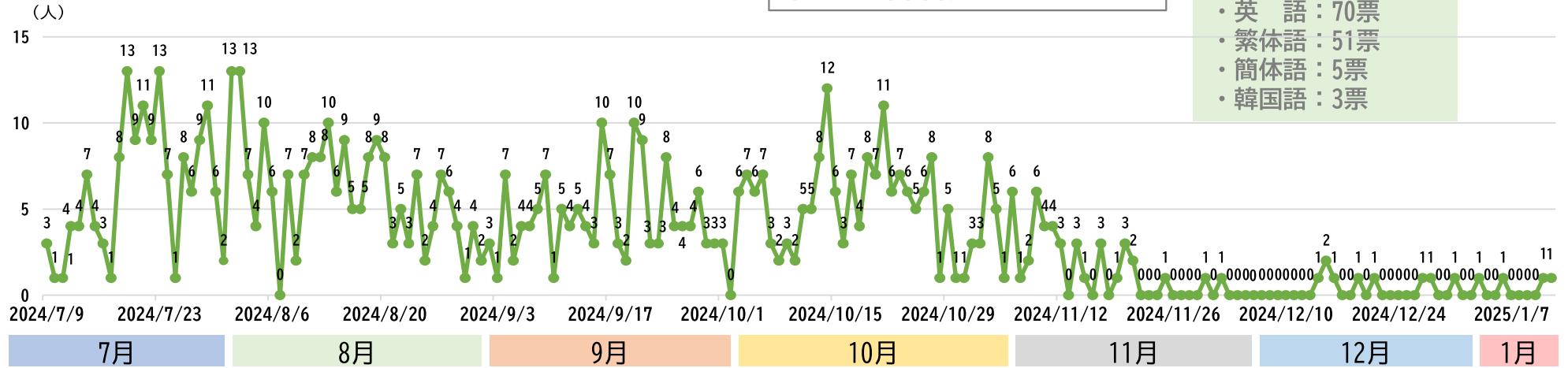
- ・上高地ビビターセンター
- ・上高地インフォメーションセンター
- ・沢渡ナショナルパークゲート
- ・新穂高ロープウェイ新穂高温泉駅1階インフォメーション
- ・平湯温泉観光案内所
- ・平湯バスター・ミナル総合案内所
- ・奥飛騨ビビターセンター
- ・乗鞍BASE
- ・乗鞍岳・畠平バスター・ミナル総合案内所
- ・のりくら高原観光案内所
- ・白骨温泉観光案内所
- ・国立公園内を走る路線バス車内（座席ポケットに配置）
- ・宿泊施設（上高地/乗鞍/奥飛騨（新穂高・平湯））

調査項目

カテゴリー	主な項目
属性	<ul style="list-style-type: none"> ● 国籍、居住地、日本在住の場合は都道府県、性別、年代
旅行全体の動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 同伴者、旅行形態、旅行日数、今回の旅行での立ち寄り場所
中部山岳国立公園 南部地域の利用動向等	<ul style="list-style-type: none"> ● 国立公園であることの認知度【数値目標】 ● Kita Alps Traverse Routeの認知度【2023追加項目】 ● 南部地域への来訪回数 ● 南部地域のイメージ ● 訪問のきっかけとなった情報源 ● 現地の詳細情報を得るための情報源 ● 公園内で実施した活動 ● 南部地域の一番の訪問目的、決めたタイミング ● 公園内での主な交通手段 ● 公園内及び周辺地域の立ち寄り場所 ● 公園内及び周辺地域での宿泊場所と日数【数値目標】 ● 南部地域での1人あたりの消費額【数値目標】 ● 購入されたもので不満を感じたもの ● 満足度（全体、自然景観、宿泊施設、食事、お土産、現地ツアー・プログラム、公園内移動、交通手段、情報、看板、遊歩道、案内板、スタッフの対応） ● 友人・知人への推奨度 ● 満足したこと、困ったこと、改善してほしいこと（自由記述） ● 南部地域にどのような条件、楽しみがあれば、もう少し長く滞在したいか（自由記述）
寄付への意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 南部地域の自然環境保全や観光地の磨き上げを目的とした寄付への意向
普段の旅行スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段、宿泊旅行をする際の旅行目的 ● 最近の旅行でよかったところ、今回の旅行の次に旅行したい場所
—	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査を知った場所

回答者の状況

◆回収状況



◆アンケートを知った場所

- アンケートを知った場所は、バス車内の割合が最も高く、約4割を占める。

	回答数	割合
上高地ビジターセンター	131	18.6%
上高地インフォメーションセンター	41	5.8%
沢渡ナショナルパークゲート	65	9.2%
新穂高ロープウェイ新穂高温泉駅1階インフォメーション	15	2.1%
平湯温泉観光案内所	28	4.0%
平湯バスターミナル総合案内所	26	3.7%
長野県乗鞍自然保護センター	3	0.4%
乗鞍岳平バスターミナル総合案内所	26	3.7%
のりくら高原観光案内所	2	0.3%
白骨温泉観光案内所	17	2.4%
バス車内	300	42.6%
宿泊施設（上高地）	16	2.3%
宿泊施設（乗鞍）	7	1.0%
宿泊施設（奥飛騨（新穂高・平湯））	12	1.7%
その他	15	2.1%
合計	704	100.0%

◆年代

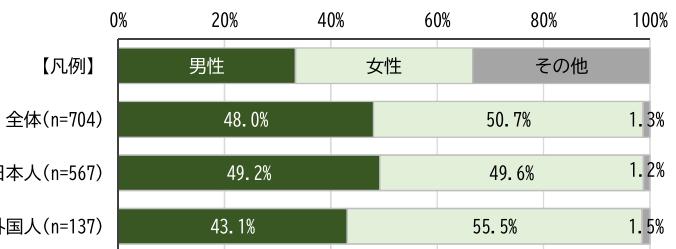
- 年代は、日本人では30～60代でそれぞれ2割前後である。
- 外国人では30代が約4割と高くなっている。

	日本人		外国人	
	回答数	割合	回答数	割合
10代	24	4.2%	5	3.6%
20代	76	13.4%	33	24.1%
30代	92	16.2%	56	40.9%
40代	86	15.2%	24	17.5%
50代	146	25.7%	11	8.0%
60代	124	21.9%	6	4.4%
70代以上	19	3.4%	2	1.5%
合計	567	100.0%	137	100.0%

※本レポートで記載する「外国人」とは、国籍が日本以外である人と定義している。（以降：外国人利用者とする）

◆性別

- 性別は、全体で「男性」が48.0%、「女性」が50.7%、となっている。
- 外国人利用者は日本人利用者と比べ女性の回答が高くなっている。



- ・本アンケート回答者は、日本人が567人（80.5%）、外国人は137人（19.5%）であり、2023年度と大きな傾向差はない。
- ・日本人の居住地は「東京都」が最も多く、次いで「神奈川県」「愛知県」となっている。
- ・外国人の主な国籍は、「中国」「米国」となっている。
- ・居住国は「日本」を除き、「中国」「タイ」の順に多くなっている。2023年度と比べ、日本の割合は大きく変わらず、上位の中国・シンガポールの比率が下がった。

◆日本人・外国人の内訳

	回答数	割合
日本人	567	80.5%
外国人	137	19.5%
合計	704	100.0%

【参考：2022・2023年度
日本人・外国人内訳】

	2022年度		2023年度	
	回答数	割合	回答数	割合
日本人	576	90.4%	1,400	79.9%
外国人	61	9.6%	352	20.1%
合計	637	100.0%	1,752	100.0%

◆日本人の居住地（上位10地域）

	回答数	割合
東京都	106	18.8%
神奈川県	63	11.2%
愛知県	49	8.7%
埼玉県	47	8.3%
千葉県	33	5.9%
長野県	33	5.9%
大阪府	33	5.9%
兵庫県	27	4.8%
岐阜県	24	4.3%
静岡県	16	2.8%

◆外国人の主な国籍 (上位10か国)

	回答数	割合
中国	18	13.1%
米国	10	7.3%
ドイツ	7	5.1%
タイ	7	5.1%
英国	7	5.1%
フランス	6	4.4%
マレーシア	5	3.6%
インドネシア	4	2.9%
シンガポール	4	2.9%
インド	3	2.2%

◆外国人の居住国 (上位10か国)

	回答数	割合
日本	29	21.2%
中国	11	8.0%
タイ	7	5.1%
ドイツ	6	4.4%
シンガポール	6	4.4%
英国	6	4.4%
フランス	5	3.6%
マレーシア	4	2.9%
米国	4	2.9%
オランダ	3	2.2%

【参考：2022・2023年度外国人の居住国】

2022年度

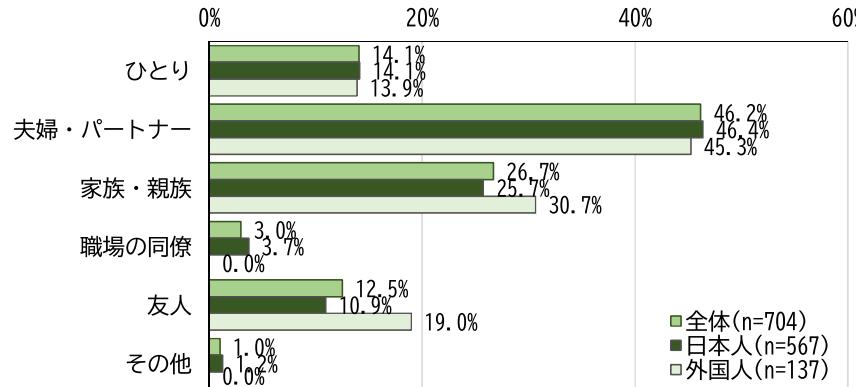
	回答数	割合
日本	57	60.6%
シンガポール	6	6.4%
タイ	5	5.3%
米国	4	4.3%
中国	4	4.3%
イタリア	3	3.2%
オーストラリア	3	3.2%
イスラエル	2	2.1%
ベトナム	2	2.1%
その他	11	11.7%
合計	94	100.0%

2023年度

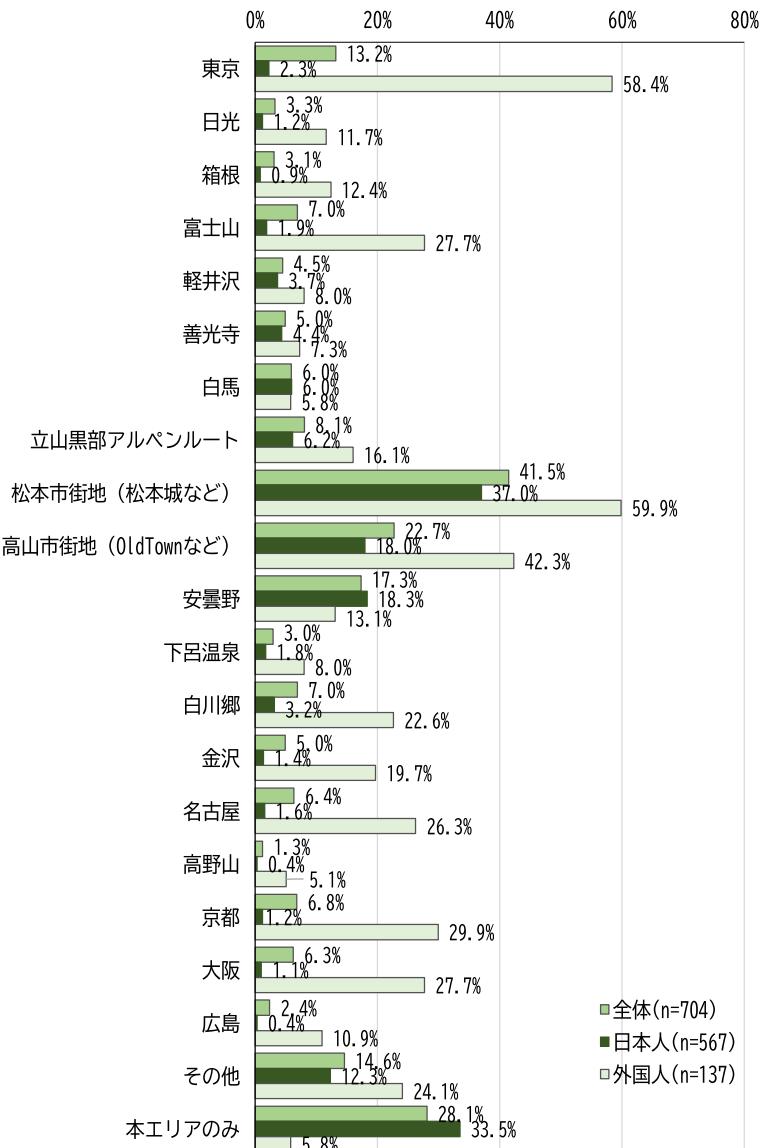
	回答数	割合
日本	73	20.7%
中国	45	12.8%
シンガポール	24	6.8%
タイ	22	6.3%
米国	13	3.7%
オーストラリア	11	3.1%
イスラエル	11	3.1%
英国	11	3.1%
その他	142	40.3%
合計	352	100.0%

- ・ 同伴者は、日本人、外国人ともに「夫婦・パートナー」の割合が最も高い。
- ・ 旅行形態は、日本人、外国人とも「個人旅行」が9割以上と、ほとんどを占めている。
- ・ 旅行日数と訪れる観光地は、日本人は「2~3日」の旅行が63.0%と高く、「松本市街地」「高山市街地」を訪れる割合が高い。外国人では、「8~14日」の旅行をする割合が30.7%で、日本人よりも日本国内の様々な観光地を訪れるご回答しており、「松本市街地」「東京」「高山市街地」の順に割合が高くなっている。この3拠点は2023年度よりも大幅に増加した。

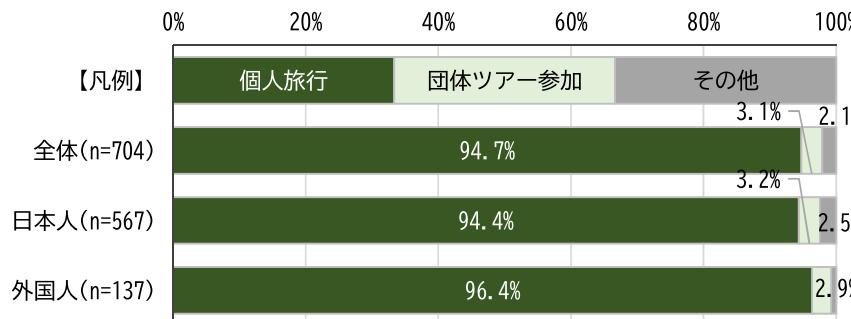
◆同伴者（複数回答）



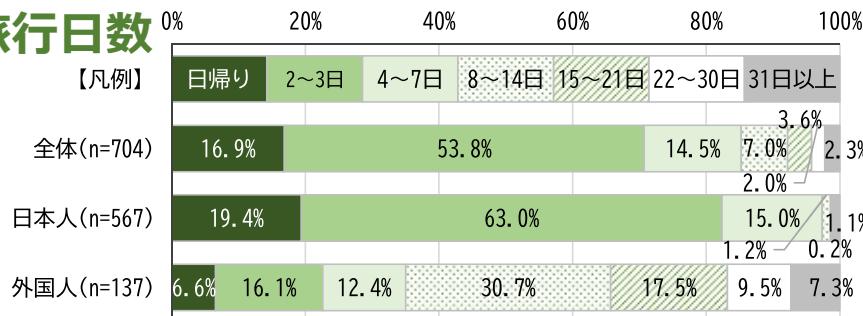
◆旅行で訪れる観光地（複数回答）



◆旅行形態



◆旅行日数



「利用の質」に関する数値目標の達成状況

※「利用促進プログラム2025」で掲げている「利用の質」に関する数値目標は、2023年のプログラム見直しにより上方修正されている。

- 2024年度の達成状況は、日本人、外国人ともに、新たな目標値（2025年度）の水準に達していない。
- 日本人、外国人ともに、宿泊数、消費額は2023年度と比べ増加し、消費額においては2018年度の水準となった。一方で、国立公園であることの認知度については、日本人においては2023年度より増加したものの75%前後を推移し、外国人においては2021年度以降の上昇基調から再度下落に転じた。

◆利用の質に関する数値目標【日本人利用者】

	環境省全国調査		南部地域独自調査				目標値 (2025年度)	達成率
	基準値 (2018年度)	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
平均宿泊日数(周辺地域を含む)	2.3泊	1.6泊	1.5泊	1.7泊	1.4泊	1.7泊	3.3泊	51.5%
【参考】平均宿泊日数(公園内)	1.8泊	1.3泊	1.3泊	1.3泊	1.1泊	1.5泊	—	—
1人あたり消費額	41,509円	33,311円	35,797円	40,938円	39,645円	42,152円	53,250円	79.2%
国立公園であることの認知度	71.6%	76.7%	73.1%	74.5%	72.4%	76.3%	80.0%	95.4%

◆利用の質に関する数値目標【外国人利用者】

	環境省全国調査		南部地域独自調査				目標値 (2025年度)	達成率
	基準値 (2018年度)	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
平均宿泊日数(周辺地域を含む)	3.5泊	2.7泊	1.5泊	2.1泊	2.6泊	2.8泊	4.5泊	77.8%
【参考】平均宿泊日数(公園内)	1.6泊	1.3泊	0.9泊	1.0泊	1.1泊	1.1泊	—	—
1人あたり消費額	68,038円	56,697円	34,597円	48,576円	56,105円	69,236円	93,720円	73.9%
国立公園であることの認知度	79.2%	71.4%	49.0%	53.2%	59.1%	55.1%	80.0%	68.9%

※平均宿泊日数(公園内)は数値目標ではないが参考値として掲載している。

※平均宿泊日数は、日帰りも0泊として計算に含み、周辺地域および公園内における延べ人泊数を算出し、利用者数で除することで平均宿泊日数を算出。

- 1人あたり消費額の内訳をみると、日本人では「飲食」「交通費」「娯楽」「買い物」、外国人は「交通費」「体験」「娯楽」「買い物」「その他」の費用において基準値（2018年度）よりも高くなっている。なお、外国人においては、訪日外国人の1人あたり消費額が高く、特に「宿泊費」で高くなっている。

◆1人あたり消費額(公園内) 【日本人】

	環境省全国調査		南部地域独自調査					
	基準値 (2018年度)	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
宿泊費	17,617円	13,730円	14,434円	14,791円	15,455円	16,213円		
飲食費	6,160円	4,162円	5,633円	7,061円	6,336円	6,542円		
交通費	9,486円	8,642円	9,083円	11,876円	9,974円	11,201円		
体験費	1,428円	852円	1,575円	1,263円	1,411円	1,421円		
他娯楽費	1,172円	790円	1,022円	1,211円	1,466円	1,430円		
買い物費	3,449円	3,216円	3,343円	4,040円	4,193円	4,368円		
その他	2,197円	1,918円	707円	860円	811円	978円		
合計	41,509円	33,311円	35,797円	41,102円	39,645円	42,152円		

【外国人】

	環境省全国調査		南部地域独自調査					
	基準値 (2018年度)	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
宿泊費	31,565円	22,697円	7,826円	12,743円	17,123円 (19,688円)	23,447円 (27,072円)		
飲食費	10,620円	11,590円	6,826円	11,191円	10,502円 (11,588円)	9,625円 (10,686円)		
交通費	9,441円	7,850円	10,636円	9,615円	11,461円 (11,567円)	13,682円 (15,233円)		
体験費	3,625円	1,964円	2,513円	2,390円	3,121円 (3,423円)	3,904円 (4,369円)		
他娯楽費	2,149円	1,729円	1,233円	1,730円	1,855円 (2,146円)	2,812円 (2,731円)		
買い物費	7,605円	9,351円	3,276円	5,715円	9,984円 (11,567円)	11,754円 (13,926円)		
その他	3,033円	1,516円	2,286円	2,046円	2,059円 (2,273円)	3,832円 (4,128円)		
合計	68,038円	56,697円	34,597円	45,429円	56,105円 (61,933円)	69,236円 (78,145円)		

※2023・2024年度の（）内の金額は、外国在住の旅行等で訪日している利用者のみ（日本在住の外国人を除いた利用者）1人あたり消費額を示している。

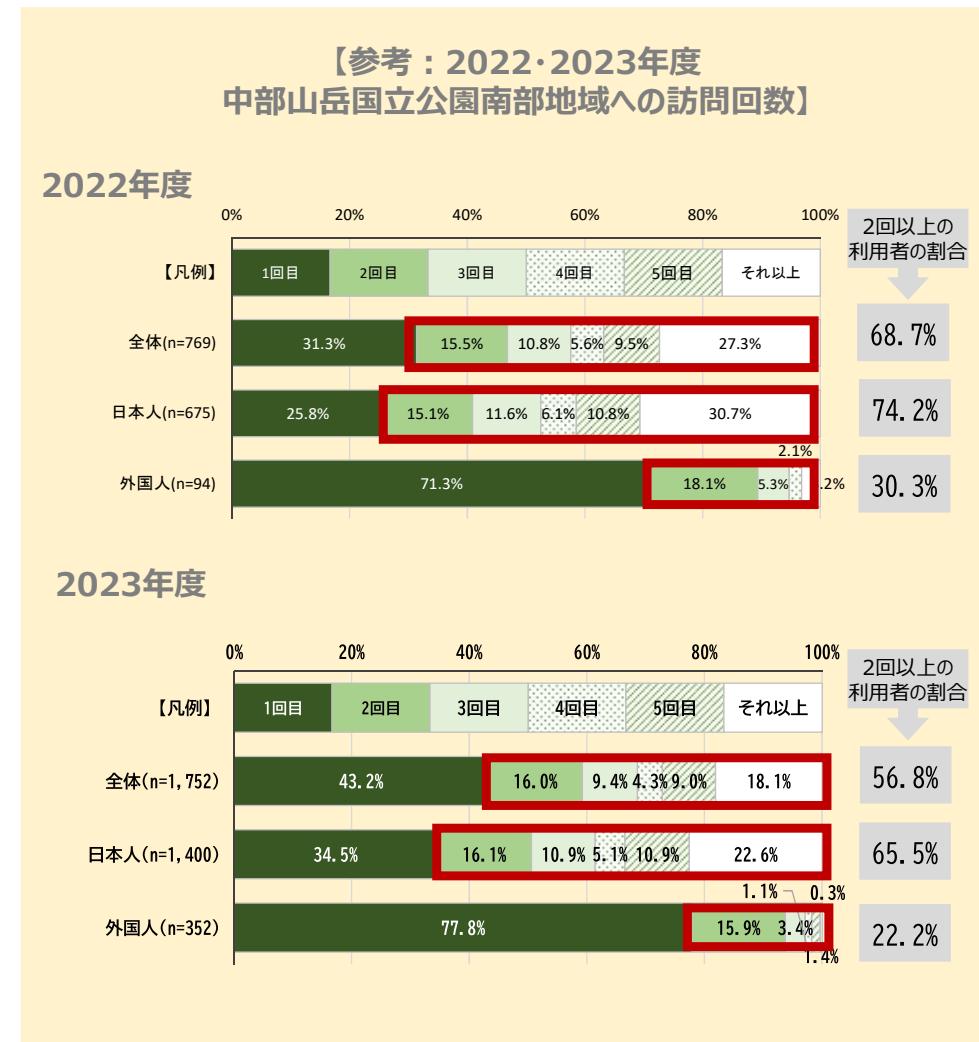
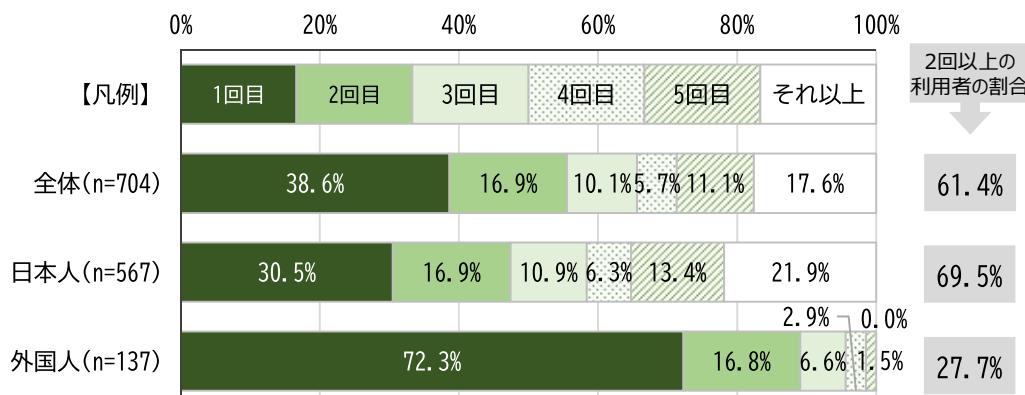
◆1人1泊あたり消費額

	環境省全国調査						南部地域独自調査											
	基準値(2018年度)		2019年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度							
	1人あたり 消費額 (公園内)	平均 宿泊日数 (公園内)	1人1泊 あたり 消費額 (公園内)															
日本人	41,509円	1.8泊	23,061円	33,311円	1.3泊	25,623円	35,797円	1.3泊	27,536円	40,938円	1.7泊	24,081円	39,645円	1.1泊	36,041円	42,152円	1.7泊	24,795円
外国人	68,038円	1.6泊	42,524円	56,697円	1.3泊	43,613円	34,597円	0.9泊	38,441円	45,429円	0.9泊	50,477円	56,105円	1.1泊	51,005円	69,236円	1.1泊	62,941円

中部山岳国立公園南部地域における利用動向

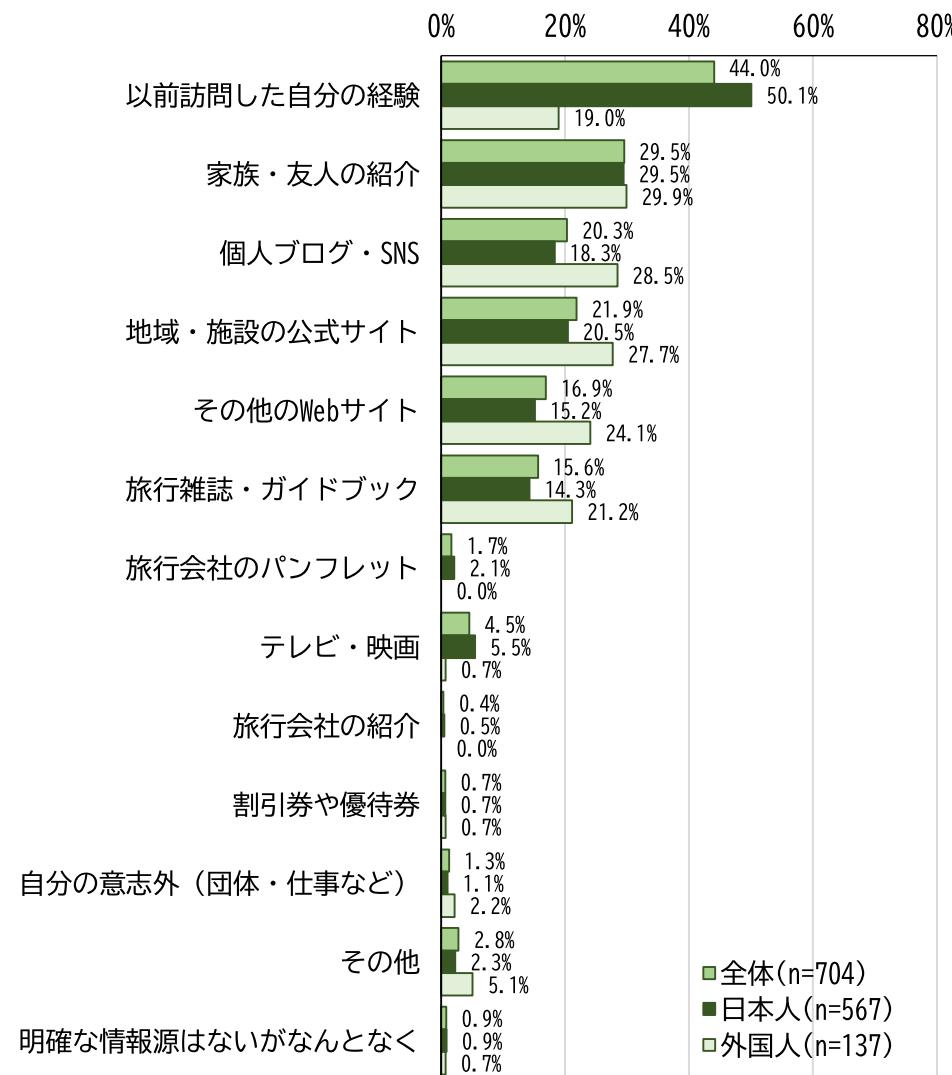
- 中部山岳国立公園南部地域への訪問回数をみると、全体で、初回利用者が38.6%、2回以上の利用者が61.4%である。日本人では、69.5%が2回以上の利用者であるが、外国人では27.7%で、約7割が初めての来訪となっている。日本人・外国人いずれも2023年度と比べ、2回以上の利用者はやや増加した。

◆中部山岳国立公園南部地域への訪問回数

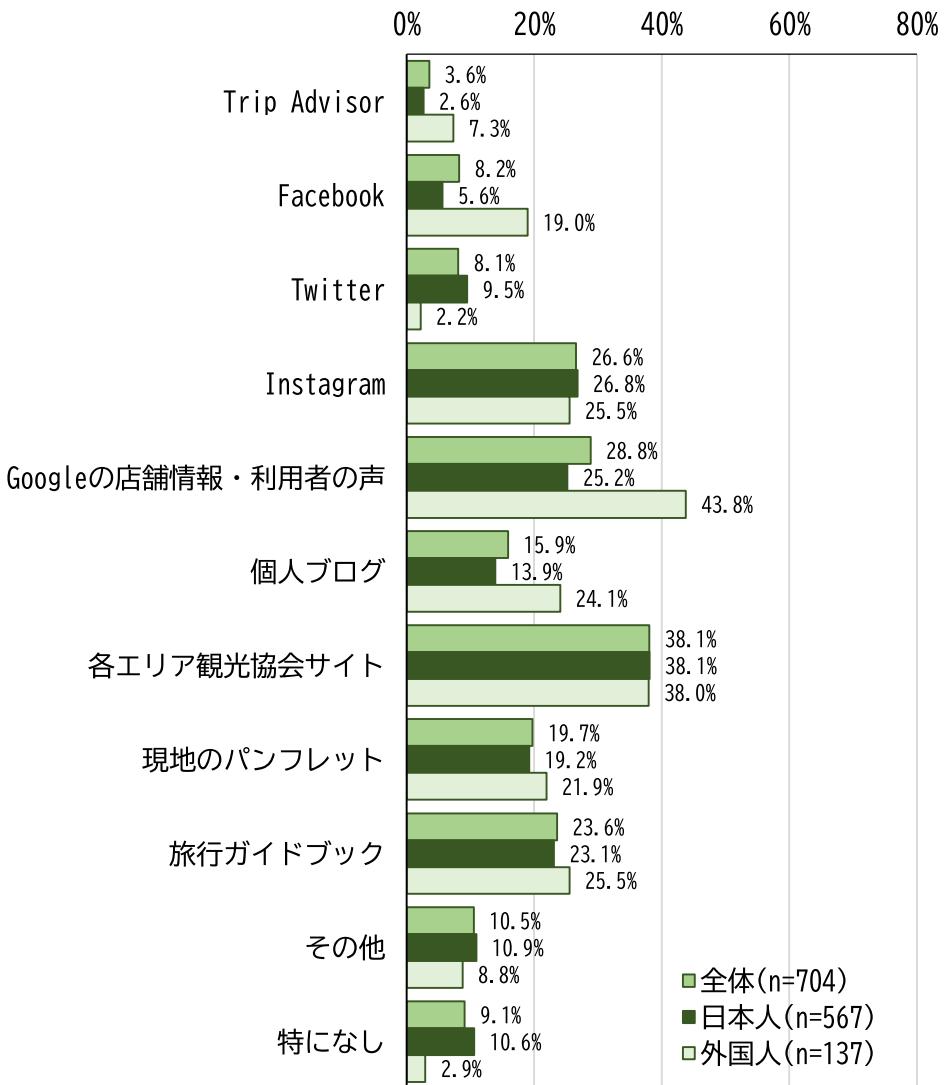


- 訪問のきっかけとなった情報源をみると、日本人は「以前訪問した自分の経験」が最も高く、外国人は「家族・友人の紹介」が最も高く、次いで「個人ブログ・SNS」となっている。
- 訪問の現地の詳細を知るために活用した情報源をみると、日本人は「各エリア観光協会サイト」が最も高く、外国人は、「Googleの店舗情報・利用者の声」が最も高く、次いで「各エリア観光協会サイト」となっている。「各エリア観光協会サイト」は日本人、外国人ともに約4割が活用している。

◆中部山岳国立公園南部地域への訪問のきっかけ となつた情報源（複数回答）

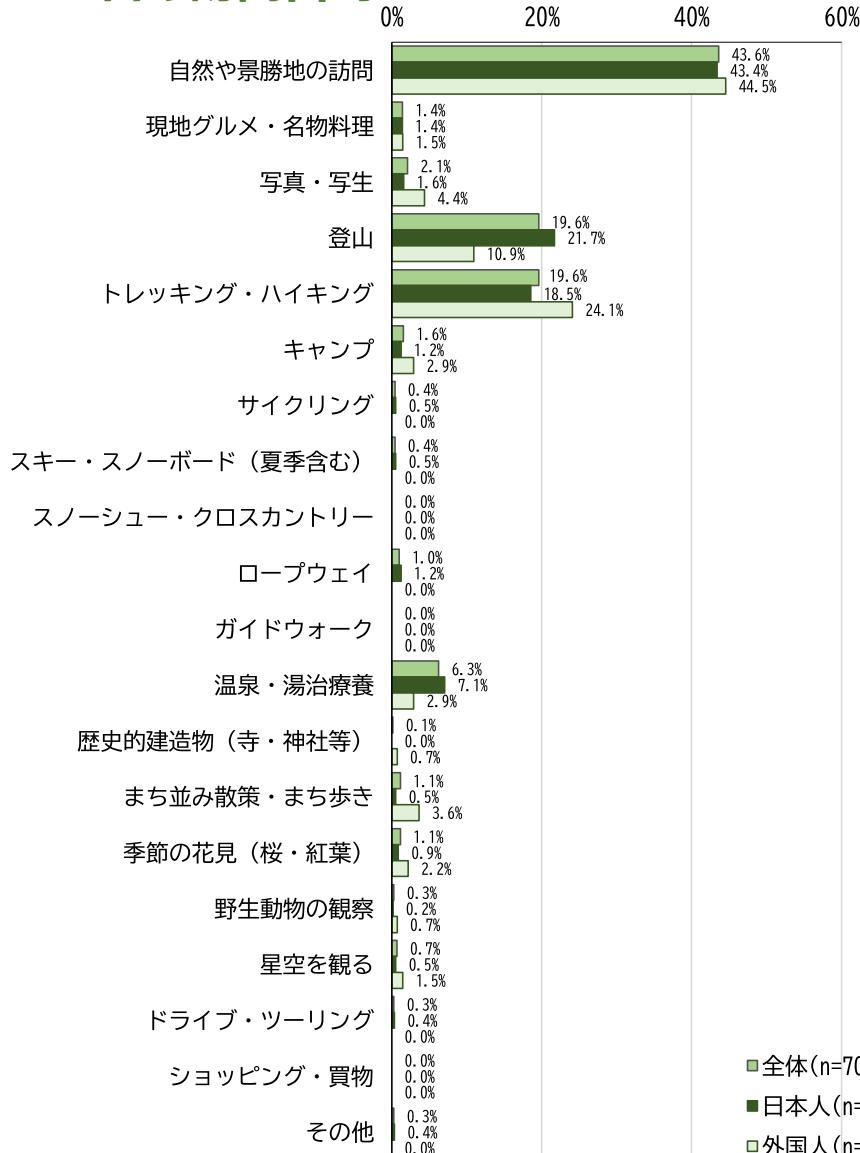


◆現地の詳細情報を知るために活用した情報原 （複数回答）

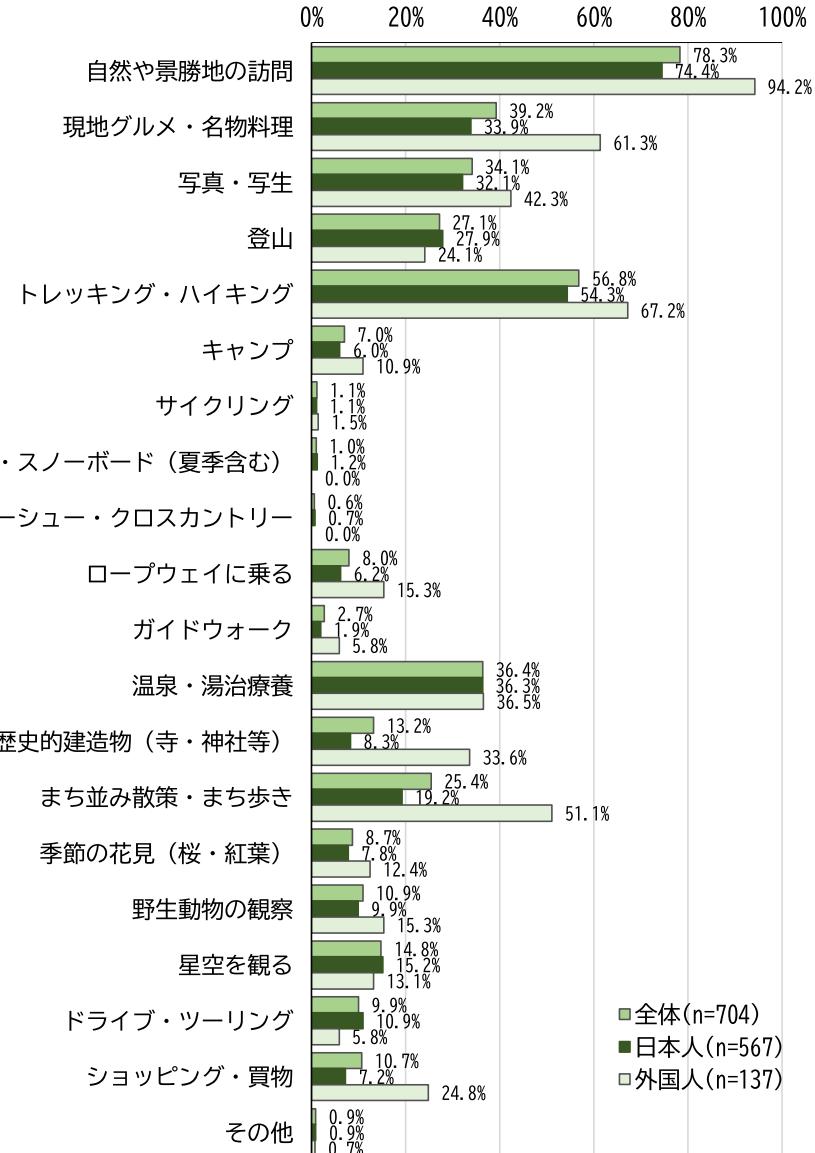


- 訪問の一番の目的は、日本人、外国人ともに「自然や景勝地の訪問」が多い。次いで、日本人は「トレッキング・ハイキング」「登山」、外国人では「トレッキング・ハイキング」が多くなっている。
- 滞在中の活動では、「自然や景勝地の訪問」や「登山」「トレッキング・ハイキング」の他、日本人では「現地グルメ・名物料理」「温泉・湯治療養」、外国人では、「現地グルメ・名物料理」「まち並み散策・まち歩き」が多くなっている。

◆中部山岳国立公園南部地域への 一番の訪問目的



◆滞在中の活動（複数回答）



- 「利用促進プログラム2025」で掲げているビジョンを以下の通り選択肢とし、中部山岳国立公園南部地域に対するイメージ(※)の有無を把握したところ、日本人・外国人ともに「山岳・高原・街を巡れる」というイメージが最も高くなっている。
- 日本人と外国人の中部山岳国立公園南部地域に対するイメージを比較すると、外国人では「国立公園に来たことを実感できる」「混み合っていない場所である」「上質な時間過ごすことができる」「多様な自然体験・アクティビティがある」「数日間、滞在し、各観光地を周遊できる」の項目において日本人よりも20ポイント以上高くなっている。
- 外国人については、「上質な時間を過ごすことができる」というイメージが2023年度に比べ約15ポイント高くなっている。

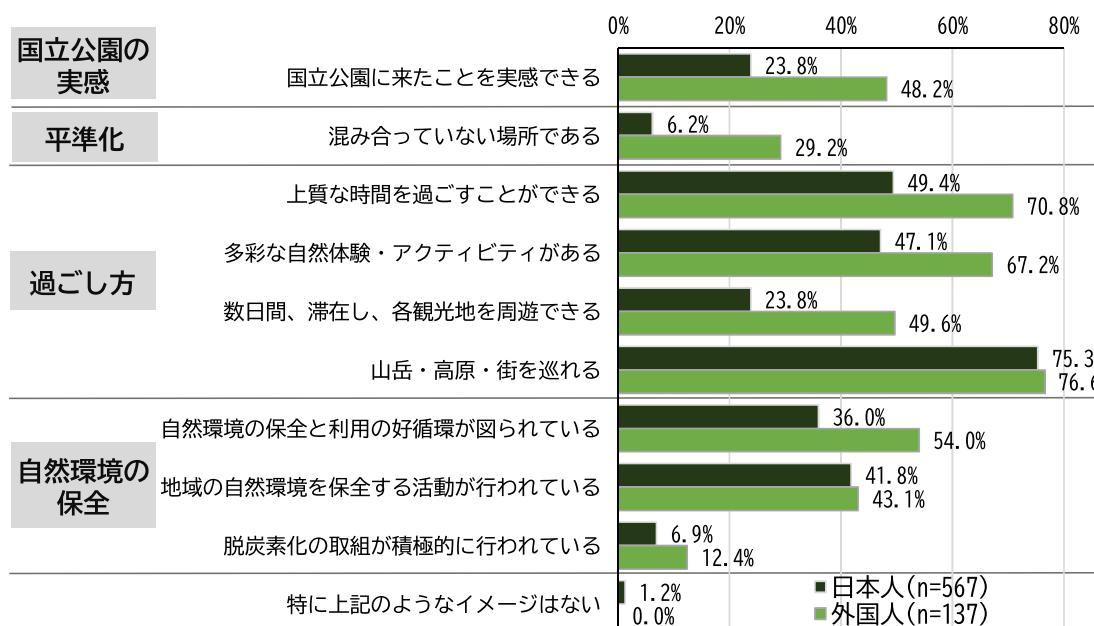
※イメージは「利用促進プログラム2025」に記載のある目指すものを基に独自に作成。

◆中部山岳国立公園南部地域に対するイメージ（複数回答）

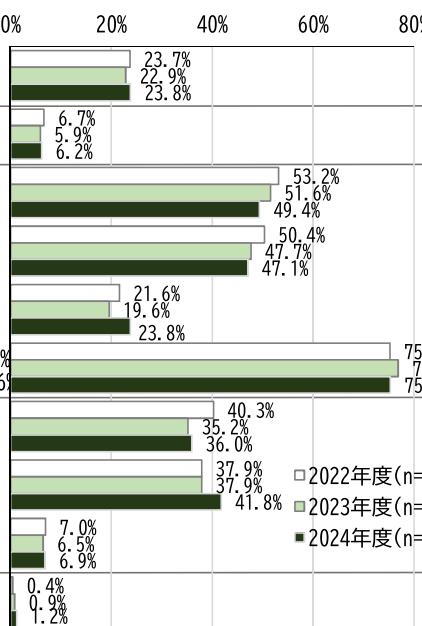
イメージの選択肢

国立公園の実感	平準化	過ごし方			自然環境の保全		
国立公園に来たことを実感できる	混み合っていない場所である	上質な時間を過ごすことができる	多彩な自然体験・アクティビティがある	数日間、滞在し、各観光地を周遊できる	山岳・高原・街を巡れる	自然環境の保全と利用の好循環が図られている	地域の自然環境を保全する活動が行われている

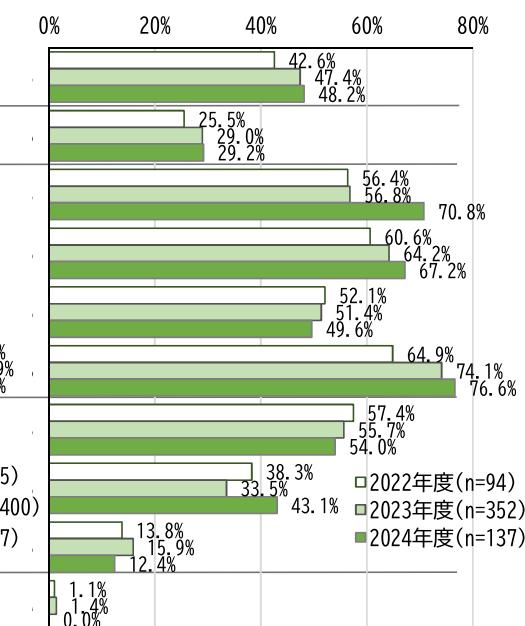
【日本人・外国人別】



【日本人】



【外国人】

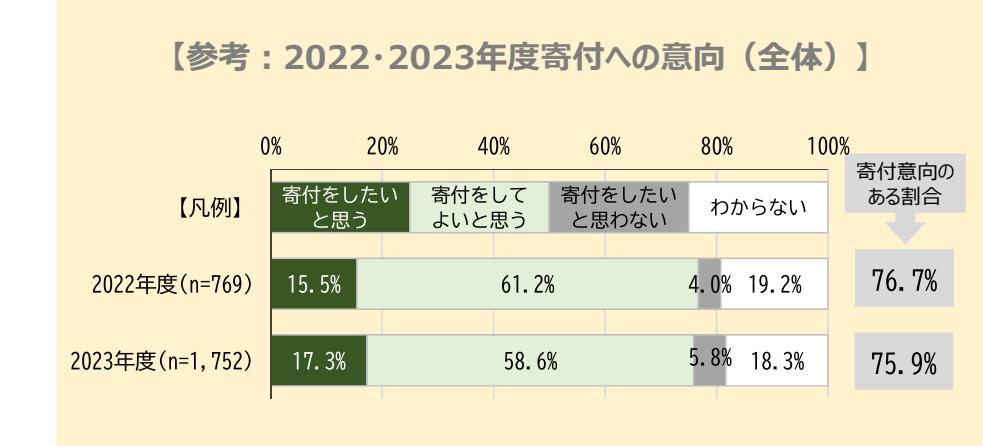
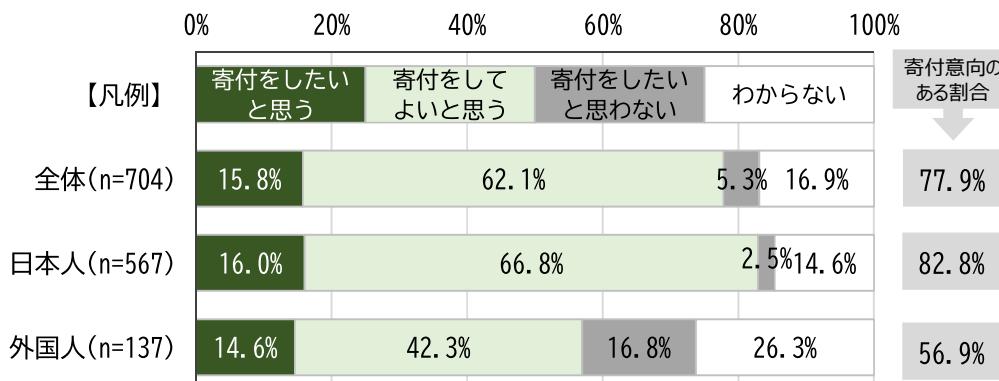


※「山岳・高原・街を巡れる」は2022年度、新規に追加された選択肢。

寄付への意向

- 中部山岳国立公園南部地域の自然環境保全や観光地の磨き上げを目的とした寄付への意向としては、全体で、「寄付をしたいと思う」は15.8%、「寄付してもよいと思う」は62.1%と、「寄付をしたいと思う」「寄付してもよいと思う」を合わせた割合は、**77.9%**である。
- 日本人、外国人別にみると、日本人利用者の方が「寄付をしたいと思う」「寄付してもよいと思う」を合わせた割合が約25ポイント高くなっている。
- 2023年度と比べて寄付の意向に大きな差はない。

◆中部山岳国立公園南部地域の自然環境保全や観光地の磨き上げを目的とした寄付への意向

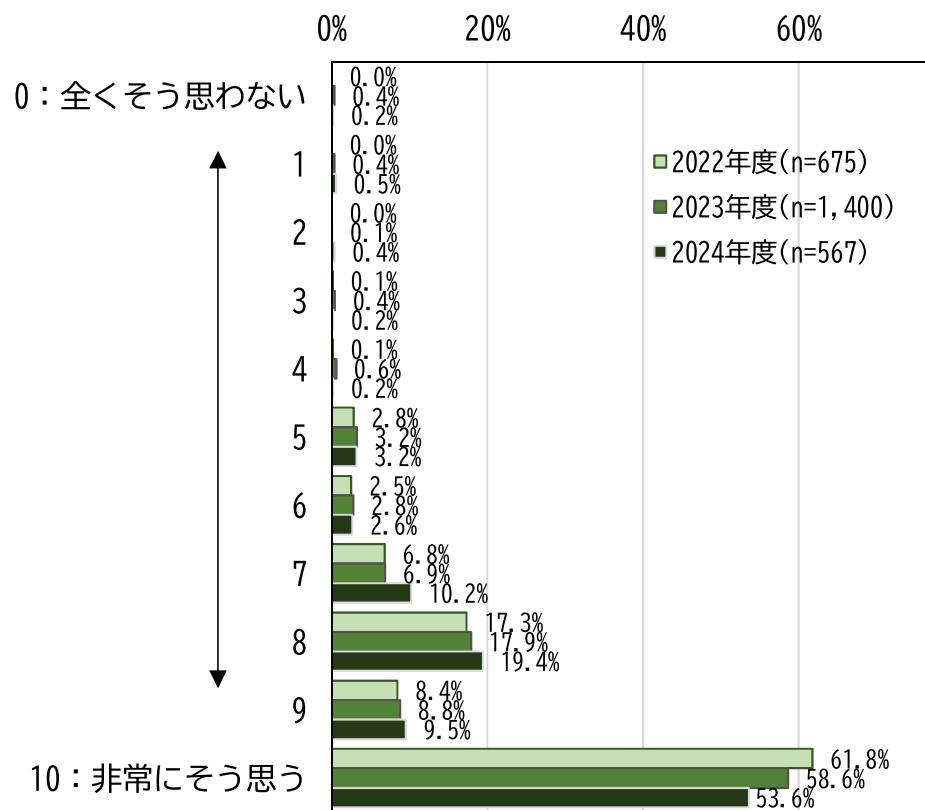


中部山岳国立公園南部地域のおすすめ度・満足度

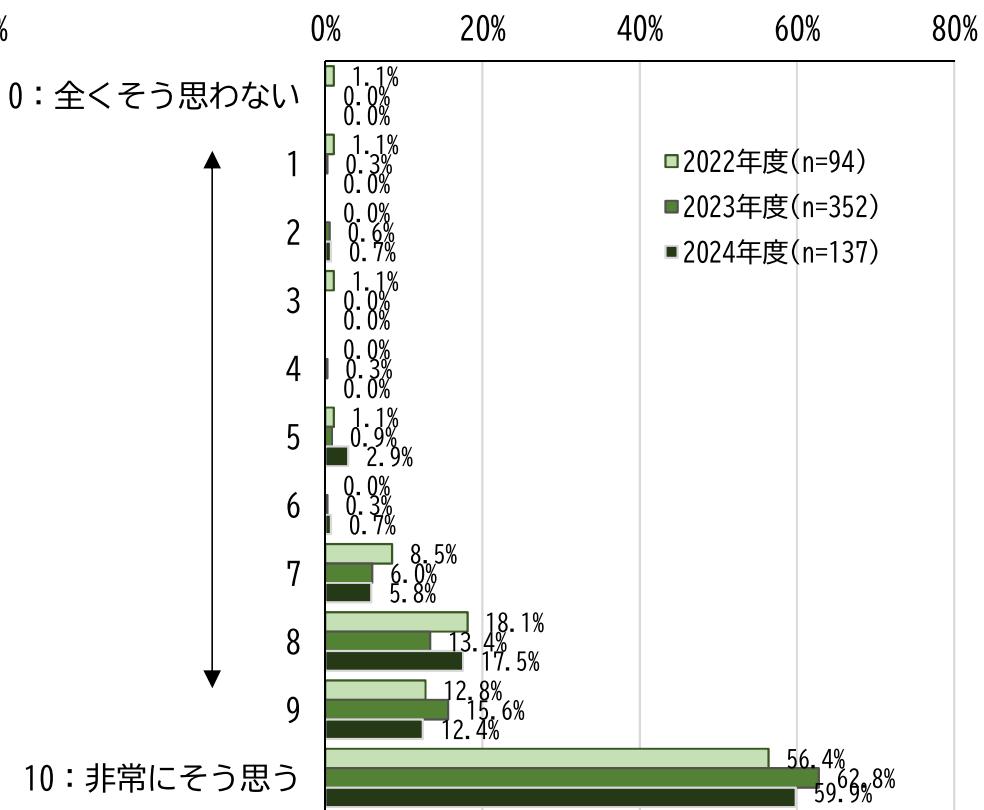
- 友人・知人への中部山岳国立公園南部地域のおすすめ度を0～10の段階で聞いたところ、最上位である「10：非常にそう思う」の割合は**日本人は53.6%**（前年比3.0ポイント減）、**外国人は59.9%**（前年比2.1ポイント減）となっている。

◆友人・知人への中部山岳国立公園南部地域のおすすめ度

【日本人】



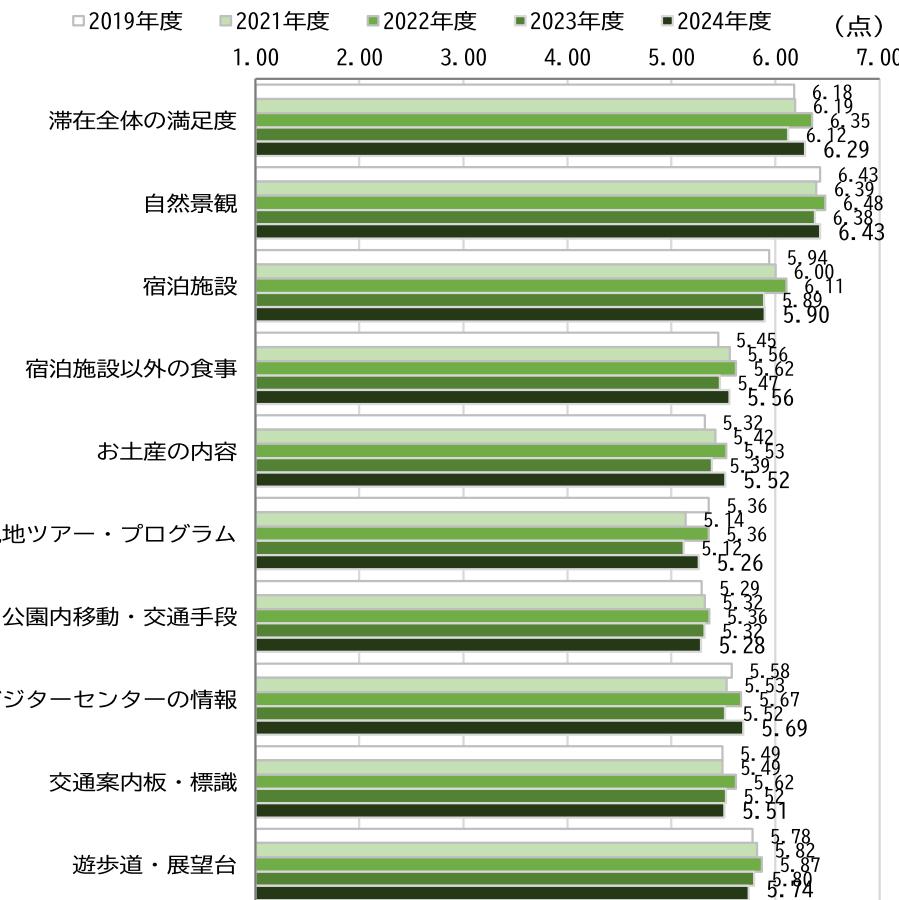
【外国人】



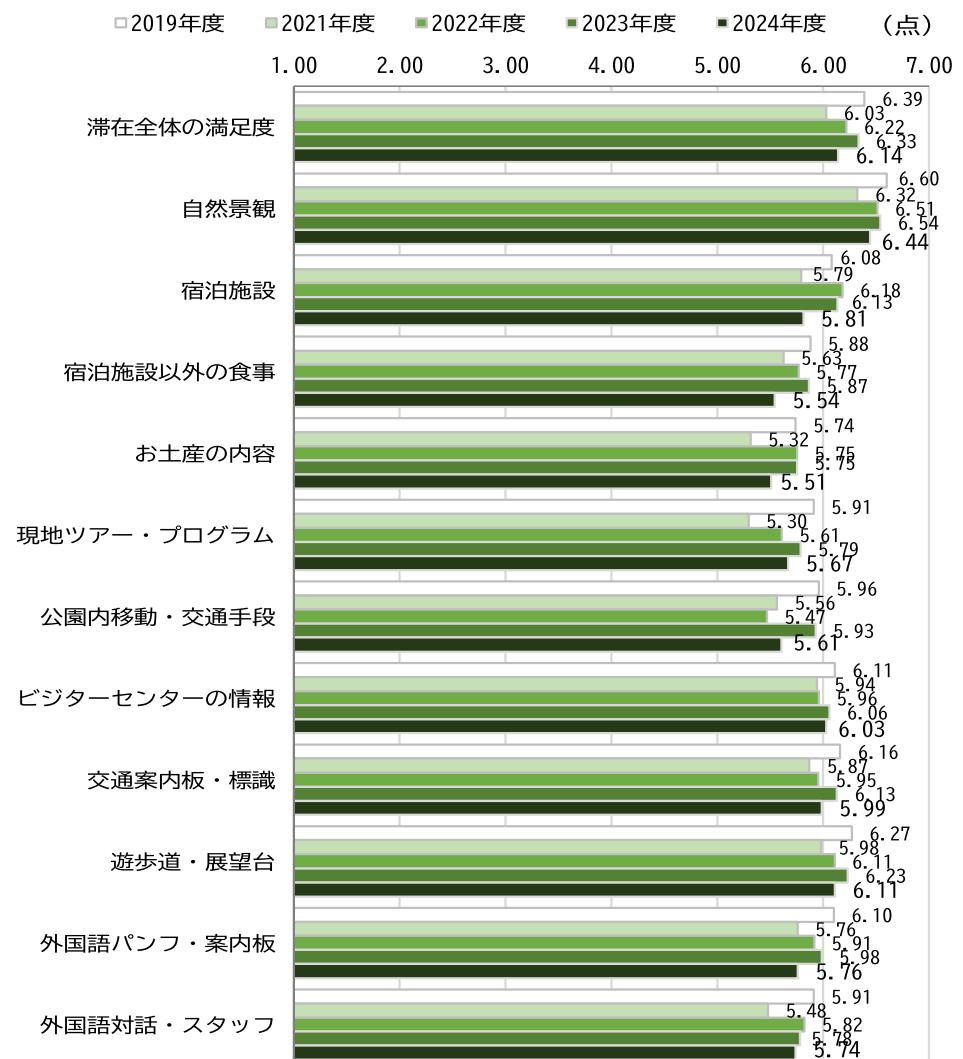
- 今回の訪問における各項目の満足度を最大7点～最低1点で点数化した(※)ところ、滞在全体の満足度は、**日本人は6.29点、外国人は6.11点**である。
- 2023年度と比較すると、日本人はほとんどの項目でやや増加した。「ビズターセンターの情報」は過去最高となり、一方で「遊歩道・展望台」は過去最低となった。外国人は、「ビズターセンターの情報」を除く全ての項目が2023年に比べ減少した。

◆今回の訪問における各項目の満足度（最大7点～最低1点で点数化）

【日本人】



【外国人】

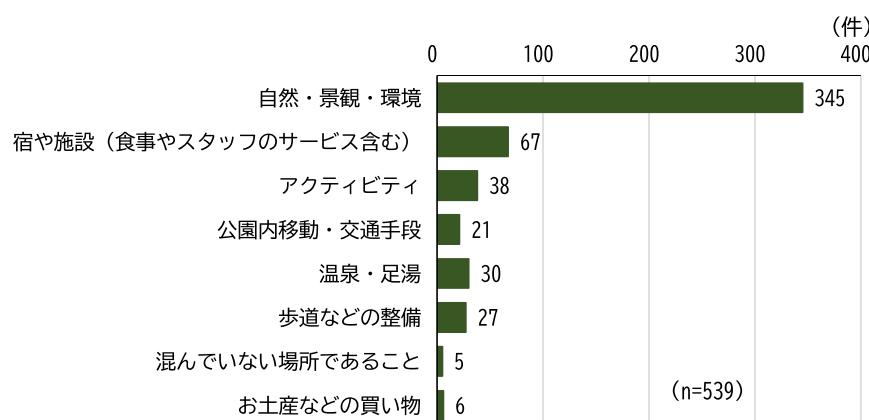


※「外国語パンフ・案内板」及び「外国語対応・スタッフ」は外国人のみの評価とする。

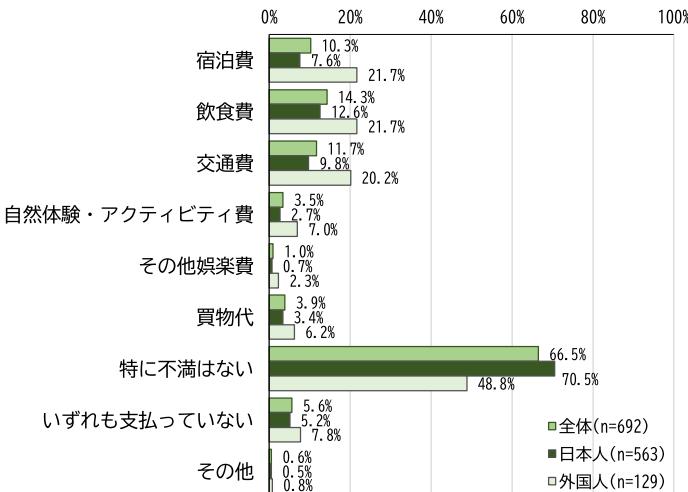
※「大変満足」：7点、「満足」：6点、「やや満足」：5点、「普通」：4点、「やや不満」：3点、「不満」：2点、「大変不満」：1点として点数化。

- 特に満足した内容としては、「自然・景観・環境」に対する意見が突出して多くなっている。
- 中部山岳国立公園南部地域でモノやサービスを購入した利用者の購入額に見合う満足度は、日本人、外国人ともに、「特に不満はない」とする割合が高い。しかし、外国人では「特に不満はない」とする割合は日本人よりも低く、「宿泊費」「交通費」「飲食費」等に対して満足を得られなかつたとする回答がみられる。
- 困ったこと、改善して欲しいことの内容としては、「公園内移動・交通手段」や「宿や施設」に関する意見が多い。
- 長く滞在したいと思える条件や楽しみは、「宿・施設の充実」が多く挙げられている。その他、「宿泊しやすい料金価格」や「公園内の移動のしやすさ」「アクティビティの充実」等が挙げられている。

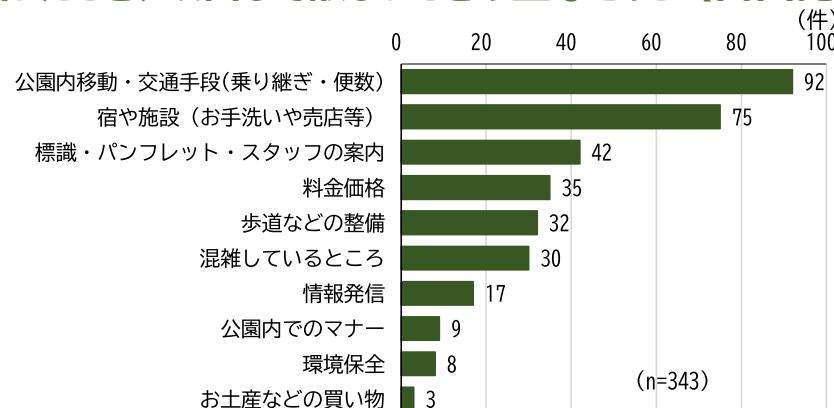
◆特に満足したことの主な意見（自由記述）



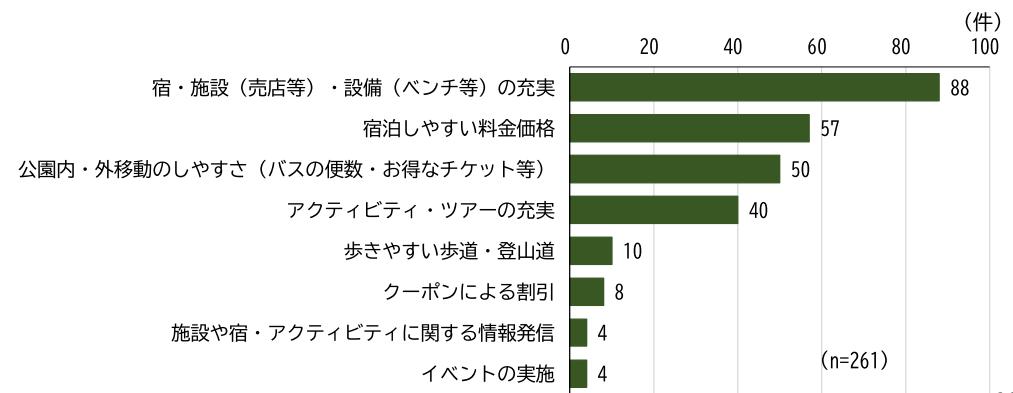
◆購入額に見合う満足を得られなかつたモノやサービス（複数回答）



◆困ったこと、改善して欲しいことの主な意見（自由記述）



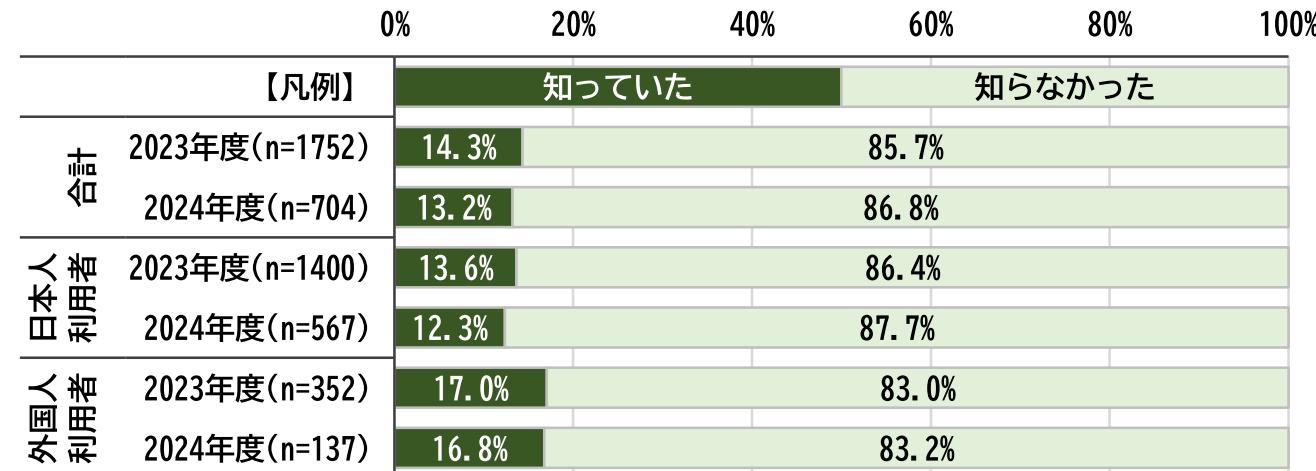
◆長く滞在したいと思える条件や楽しみの主な意見（自由記述）



Kita Alps Traverse Routeの認知度

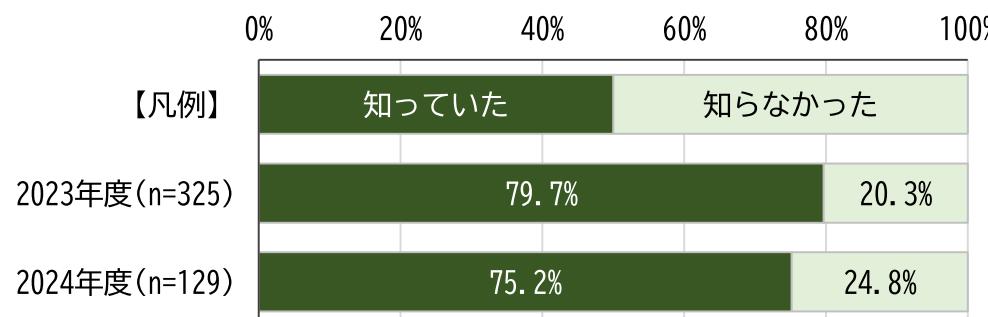
- 2023年2月に決定された松本～高山を横断するルート名称“Kita Alps Traverse Route”についての認知度を訪ねたところ、全体で、「知っていた」は13.2%、「知らなかった」は86.8%である。日本人・外国人ともに8割以上が「知らなかつた」と回答しているが、外国人の方がやや知っている割合が高くなっている。日本人・外国人いずれも、2023年度と比較して大きな差は生じていない。
- なお、外国人における“日本アルプス”と“北アルプス”的名称の認知度を聞いたところ、それぞれ「知っている」と回答した割合は、“日本アルプス”は75.2%、“北アルプス”は31.8%と2023年度と比較して大きな差は生じていない。

◆Kita Alps Traverse Routeの認知度



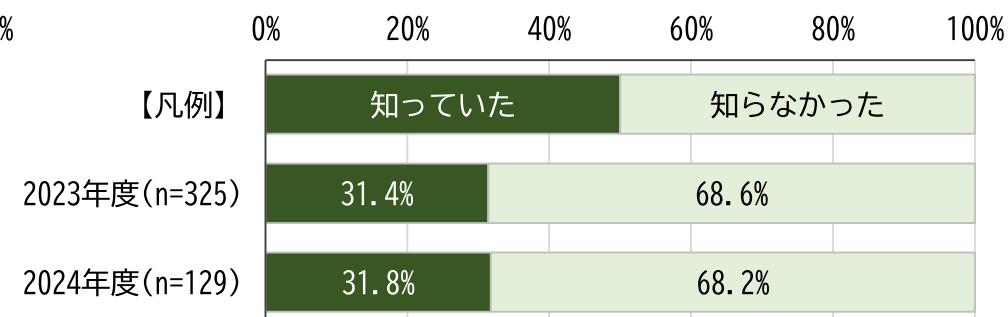
【外国人のみ】

◆日本アルプスの認知度



【外国人のみ】

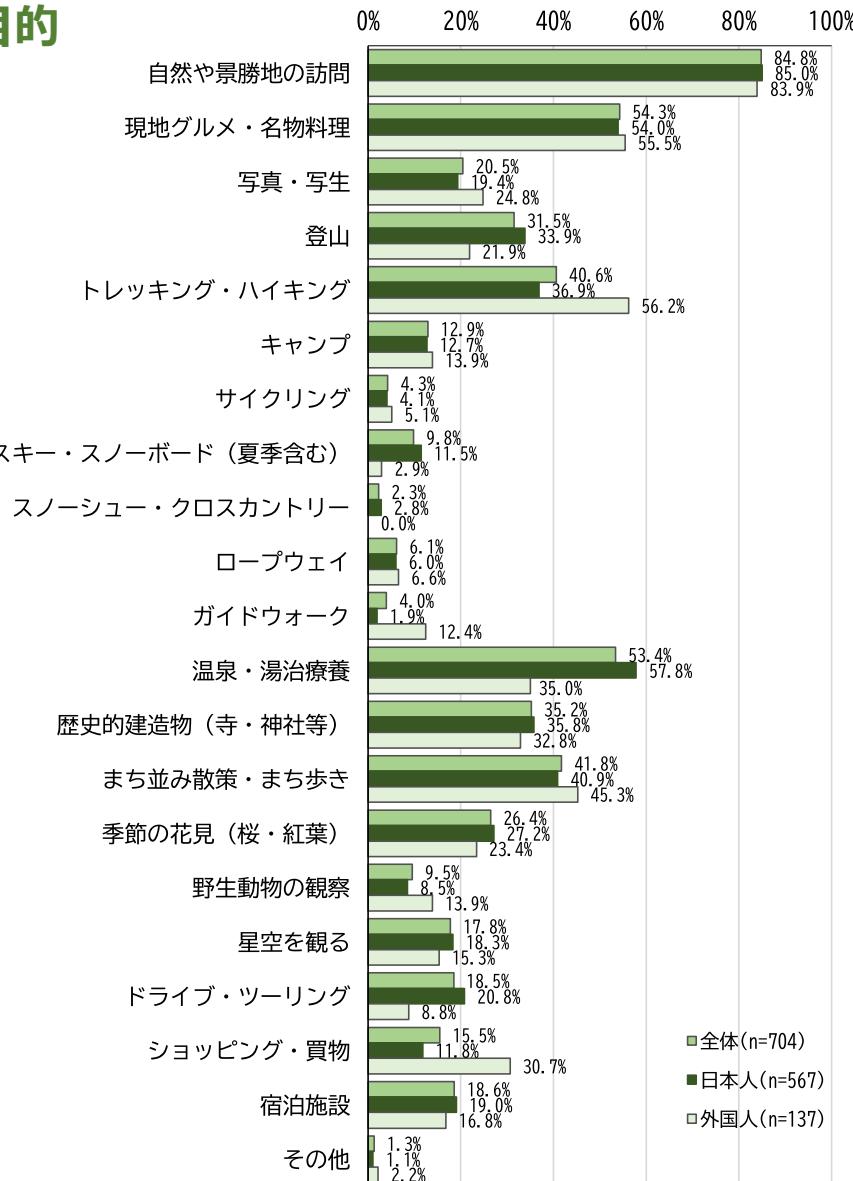
◆北アルプスの認知度



【参考】中部山岳国立公園南部地域利用者の普段の旅行

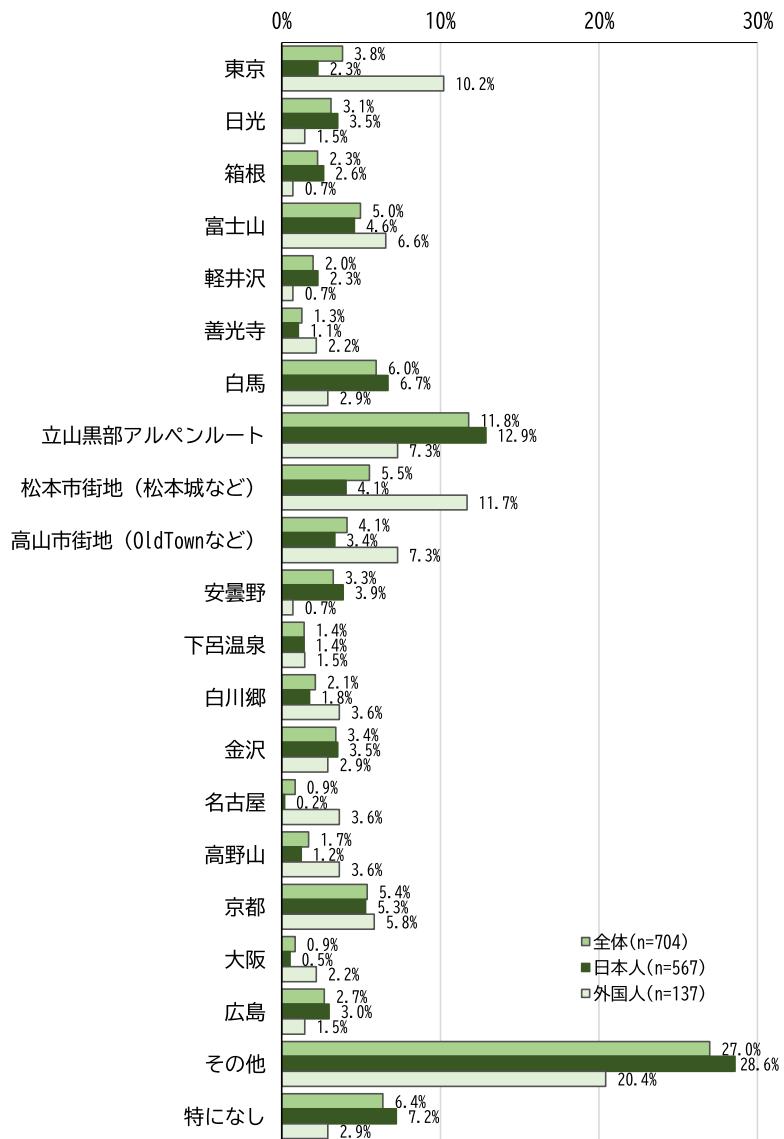
- 普段の宿泊旅行をする際の旅行目的としては、日本人利用者、外国人利用者ともに、「自然や景勝地の訪問」が7割以上と最も高くなっている。次いで、日本人では、「温泉・湯治療養」「現地グルメ・名物料理」で、外国人では「トレッキング・ハイキング」「現地グルメ・名物料理」「まち並み散策・まち歩き」の順に高くなっている。

◆宿泊旅行をする際の旅行目的 (複数回答)



- 最近行った日本国内の旅行先で最も良かったところでは、その他を除き、日本人では、「立山黒部アルペンルート」が最も高く、外国人では「松本市街地」が最も高い。
- 今回の旅行の次に旅行したい日本国内の旅行先では、その他を除き、日本人、外国人ともに「立山黒部アルペンルート」が最も高くなっている。

◆最近行った日本国内の旅行先で 最も良かったところ



◆今回の旅行の次に旅行したい 日本国内の旅行先

